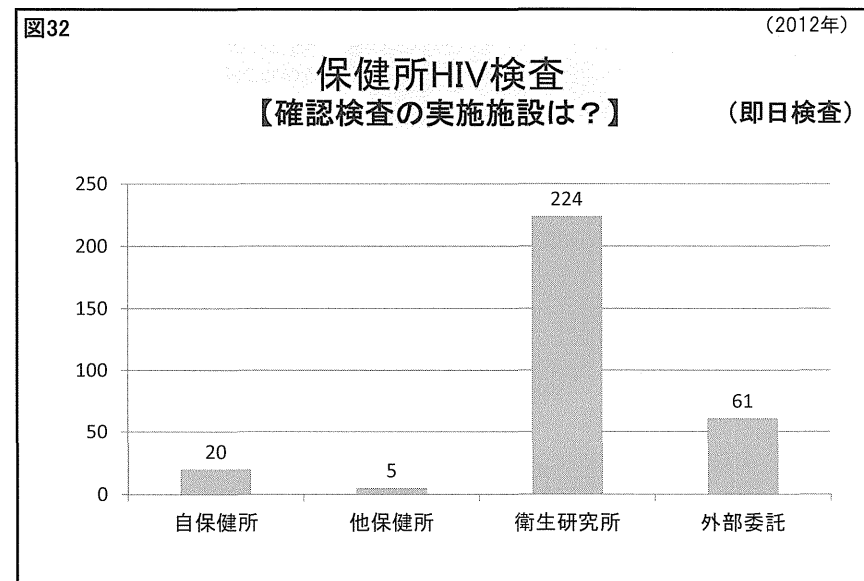
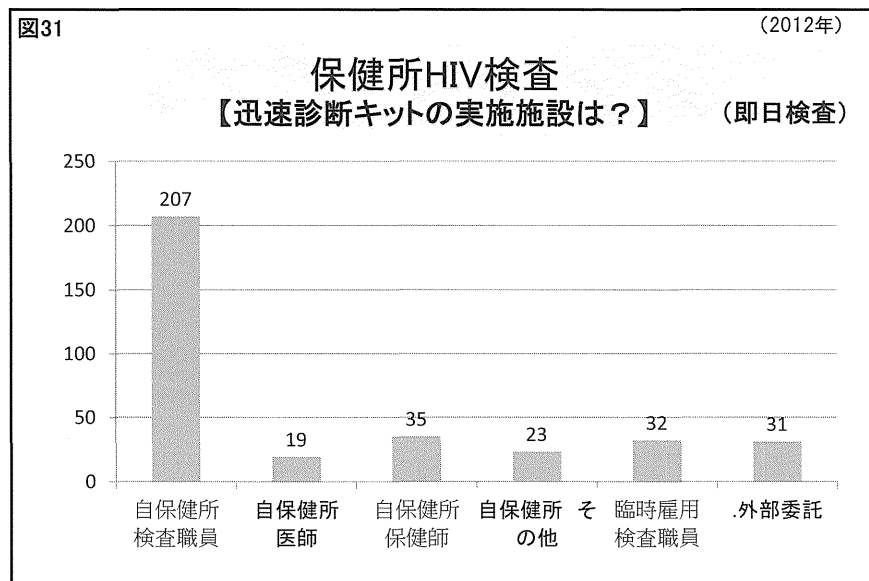
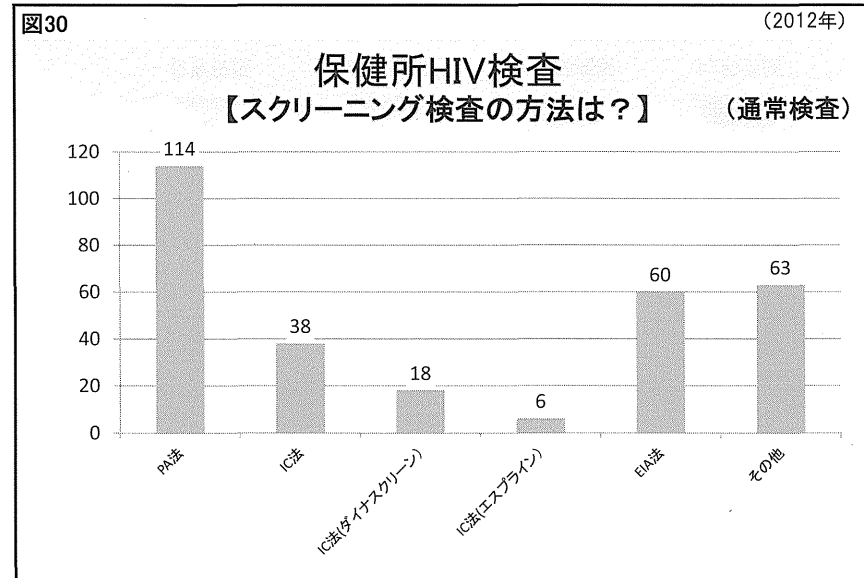
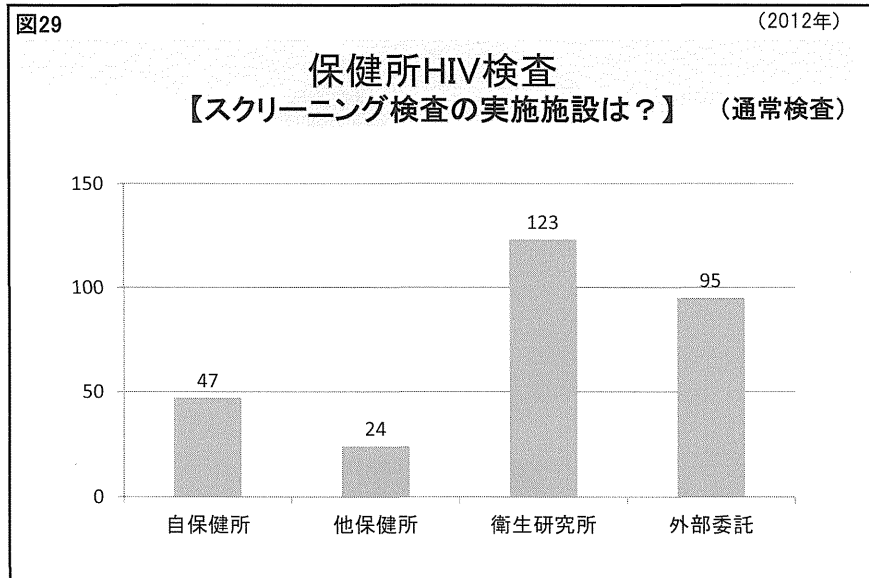
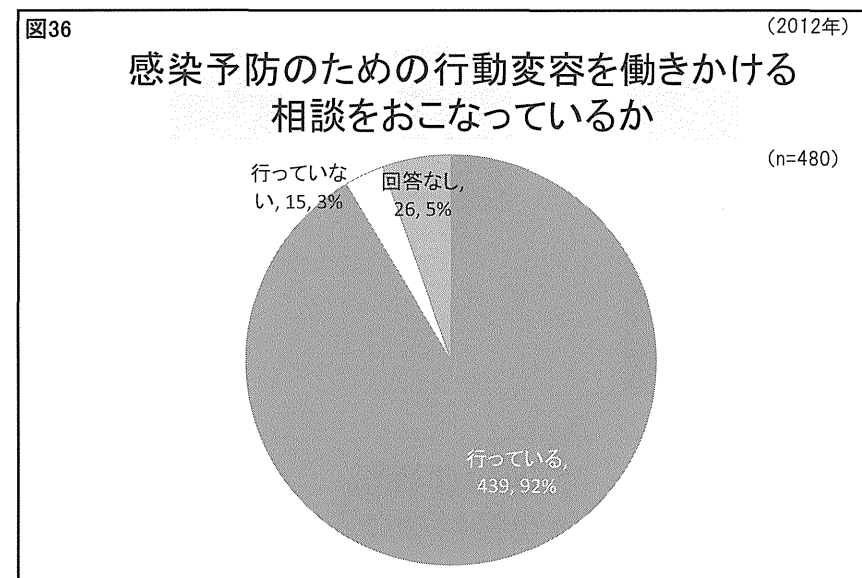
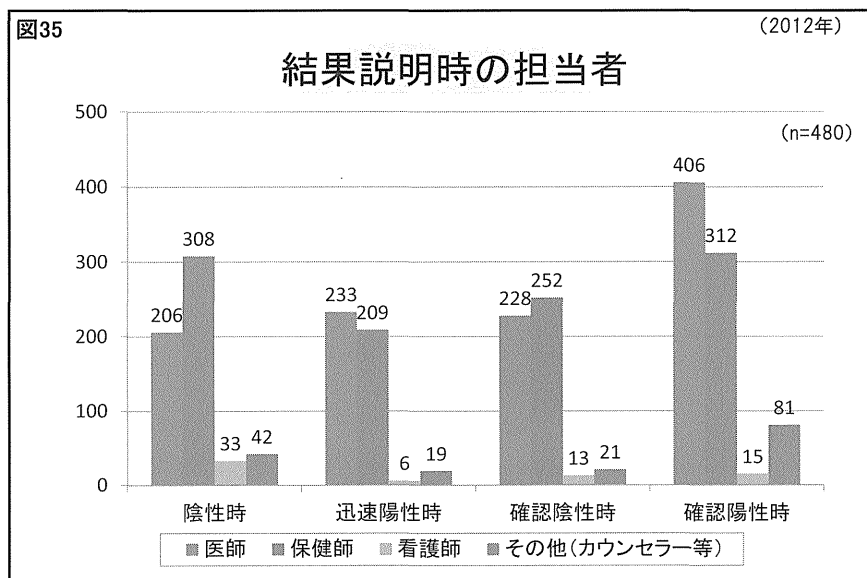
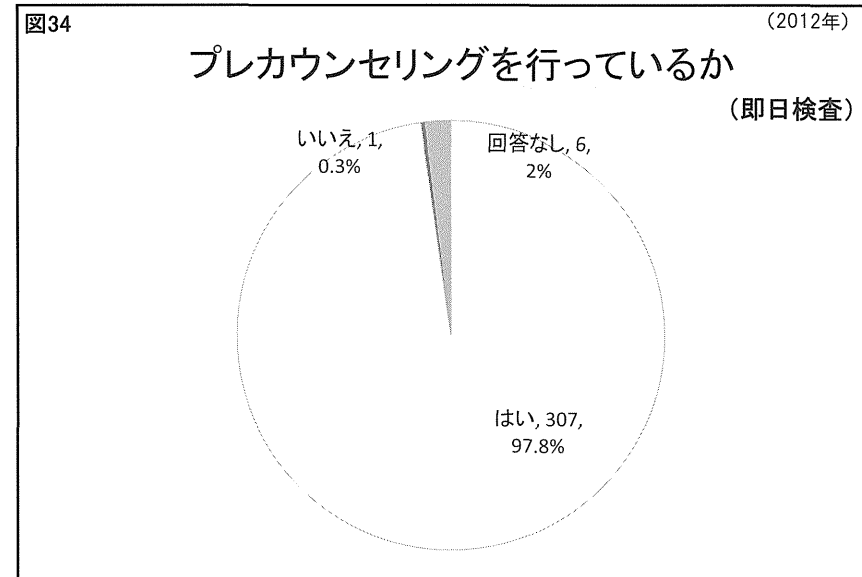
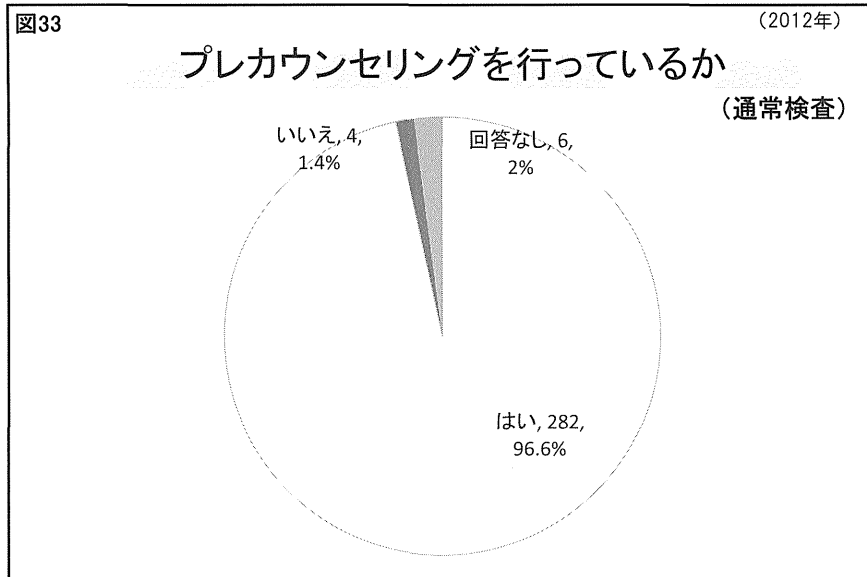
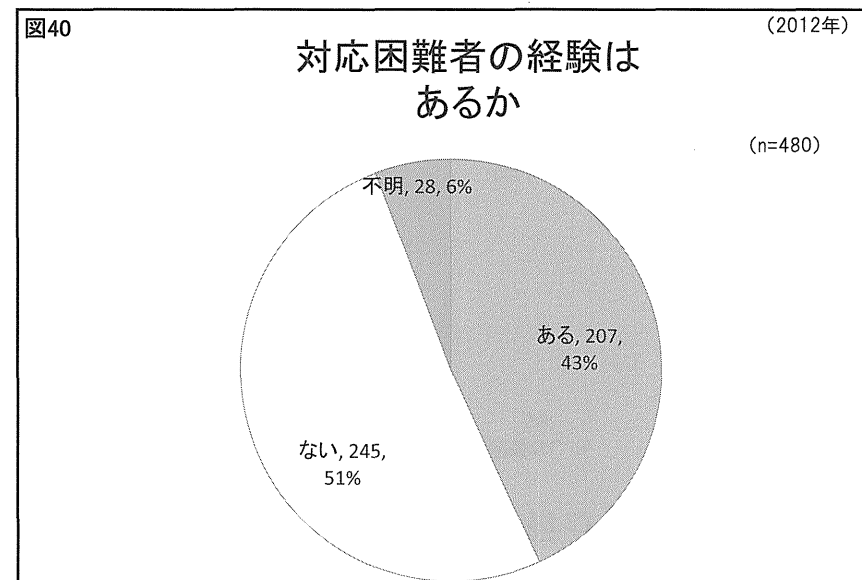
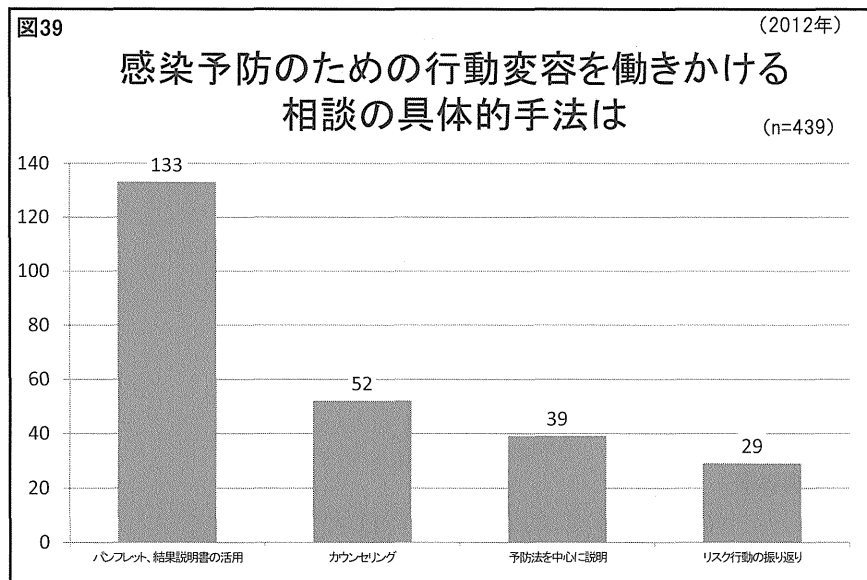
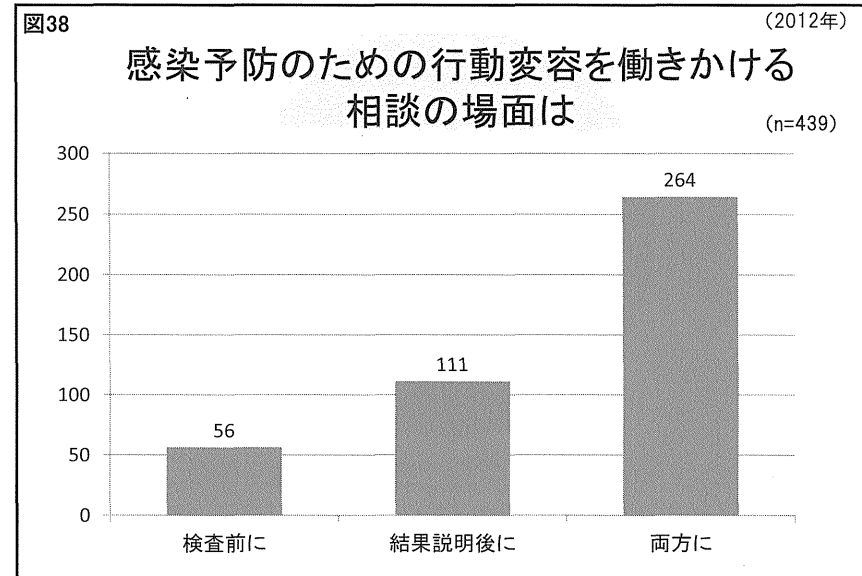
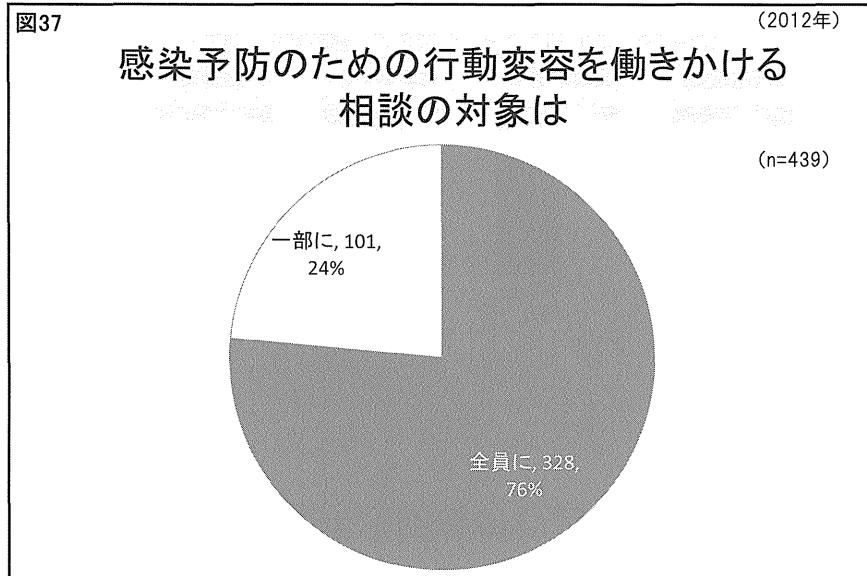
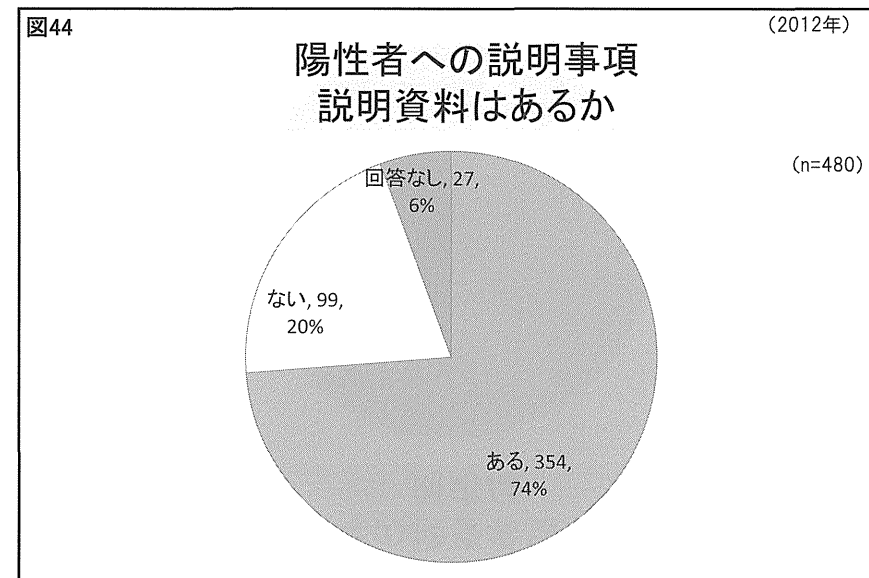
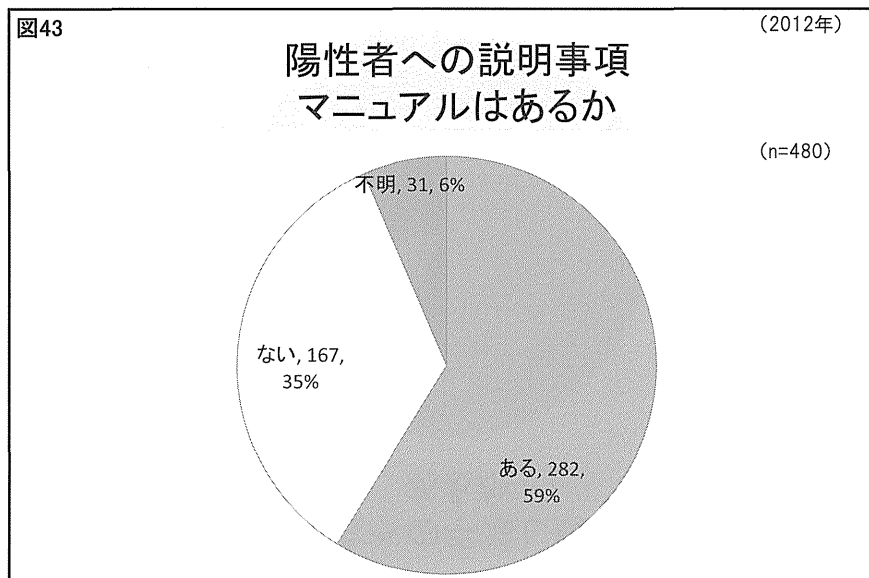
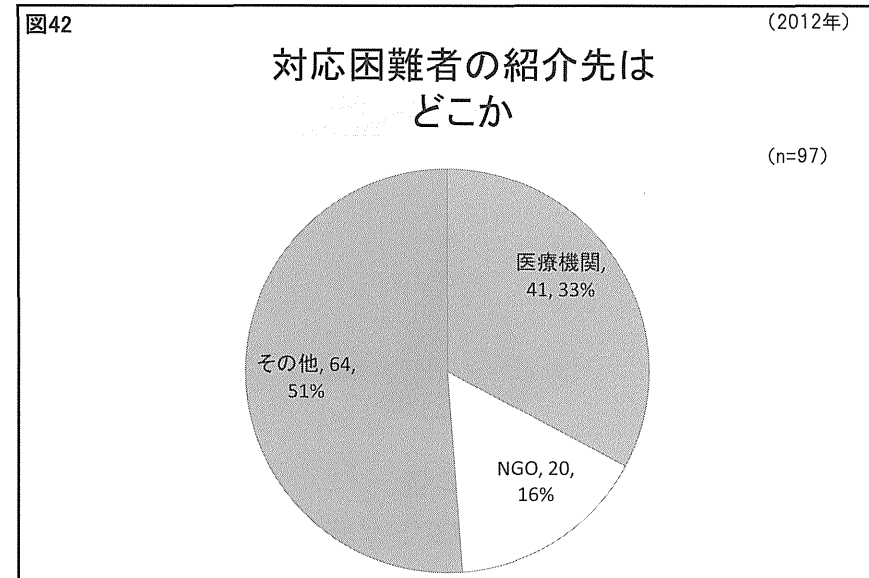
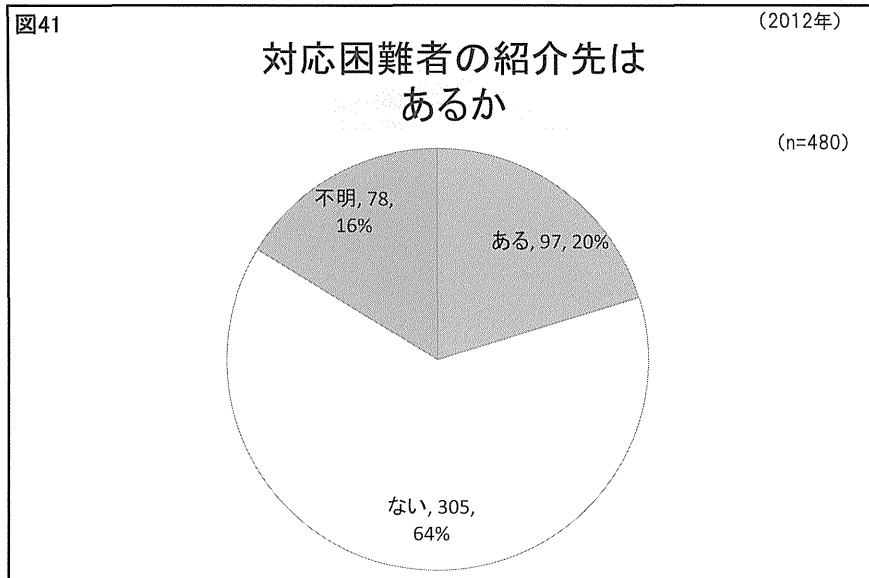










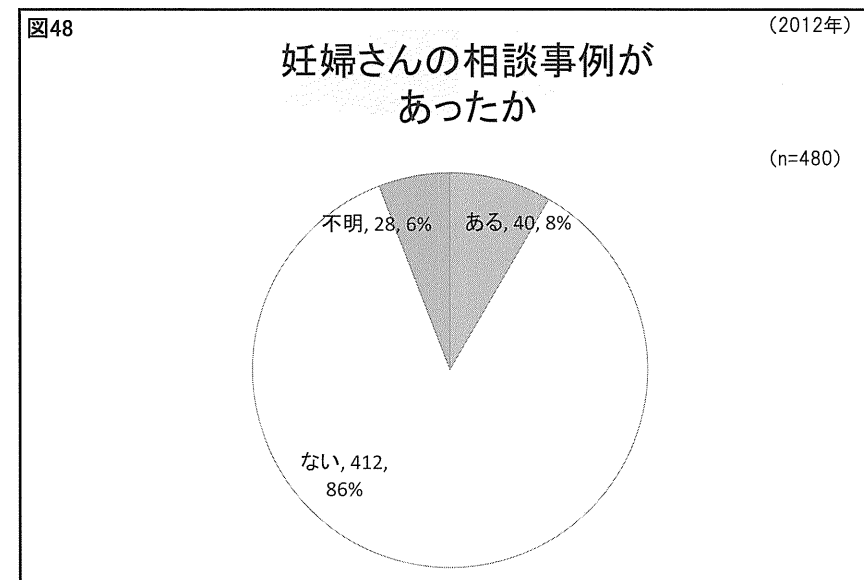
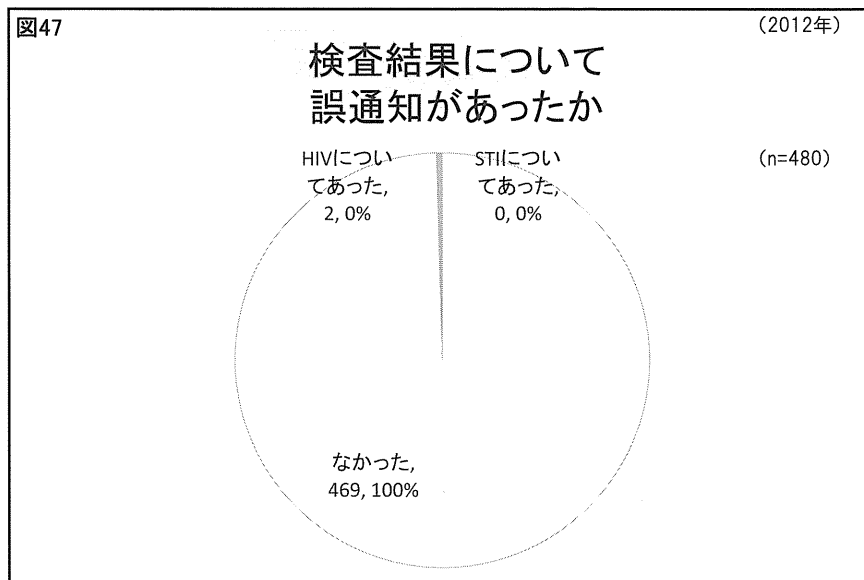
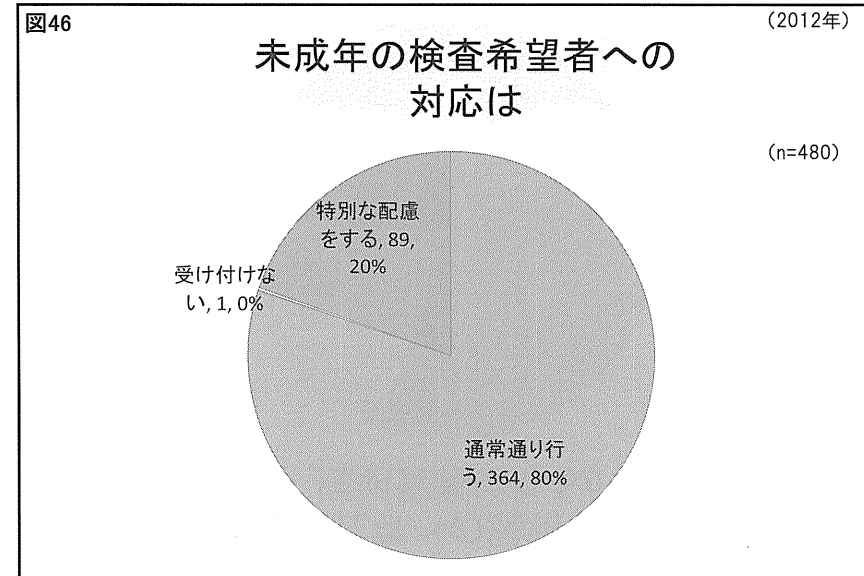
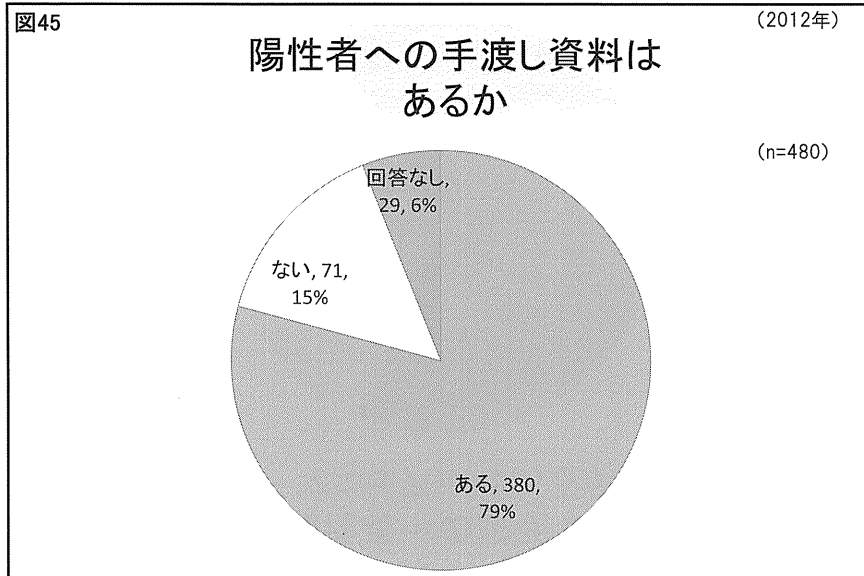
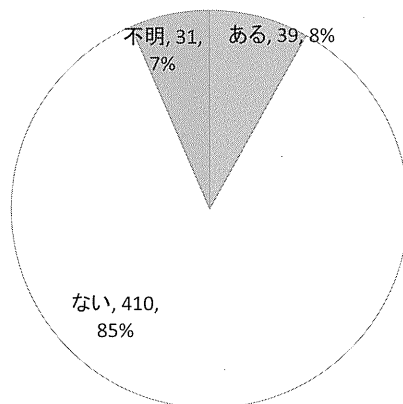


図49

(2012年)

妊婦さんの受検が あったか

(n=480)



資料 1

1. 貴保健所ではHIV検査相談を行っていますか？ (n=481) アンケート送付数 585
回収数 481 82%

はい	480件	99.8%
いいえ	1件	0.2%

「はい」と答えた保健所 → 平成24年1～12月の実施状況をお教え下さい。 (n=480)

① HIV検査件数	検査数	85,540人
	うち陽性数	217人
	陽性率	0.25%

陽性経験数	陽性者があった保健所	110件	23.1%
	陽性者がなかった保健所	367件	76.9%
	回答なし	3件	

年間検査件数別保健所数

年間検査数	保健所数		検査件数		陽性数	陽性率	陽性経験率	陽性経験数
50件未満	176	36.7%	3,905	4.6%	6	0.15%	3.4%	6
50-99件	95	19.8%	6,662	7.8%	10	0.15%	9.5%	9
100-199件	84	17.5%	12,136	14.2%	30	0.25%	23.8%	20
200-499件	89	18.6%	28,098	32.8%	68	0.24%	52.8%	47
500-999件	27	5.6%	19,521	22.8%	51	0.26%	74.1%	20
1000件以上	8	1.7%	15,218	17.8%	52	0.28%	100.0%	8
回答なし	1	0.2%						

② HIV検査結果を聞きにこなかった受検者数: 1,514人 (1.77%)

③ HIV検査での結果確認（陰性者、陽性者別）:

	陰性		陽性	
結果を聞きにきた	83,822人	98.2%	204人	94.0%
結果を聞きにこなかった	1,501人	1.8%	13人	6.0%

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？

	全体		陽性経験保健所	
ある	229	47.7%	75件	68.2%
ない	227	47.3%	34件	30.9%

(n=110)

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数: 148人 (68.2%)

⑥ 発生動向調査の報告を行ったHIV感染者数 135人 (62.2%)

2. 貴保健所で行っているHIV検査相談事業の内容について教えて下さい。

① HIV検査と同時にHIV以外の性感染症検査を行っていますか？

行っている	400件	83.3%
行っていない	78件	16.3%
不明	2件	0.4%

「行っている」と答えた保健所 → 実施している性感染症検査項目に丸をしてください。 (n=400)

梅毒	312	78.0%
クラミジア抗体	225	56.3%
クラミジア抗原	68	17.0%
淋菌	34	8.5%
B型肝炎	313	78.3%
C型肝炎	291	72.8%
HTLV-1	8	2.0%
その他	4	1.0%

② 定期的に行っているHIV検査の実施曜日と実施時間をご記入下さい。(n=480)

通常検査のみ	166	34.6%
即日検査のみ	188	39.2%
通常+即日	126	26.3%
平日昼のみ検査	249	51.9%
平日夜間検査	171	35.6%
土日検査	60	12.5%
通常のみ+平日昼のみ	131	27.3%
通常のみ+夜間も行っている	33	6.9%
通常+土日検査も	2	0.4%
即日のみ+平日昼のみ	87	18.1%
即日のみ+夜間も行っている	74	15.4%
即日+土日検査も	27	5.6%
通常+即日・平日昼のみ	31	6.5%
通常+即日・夜間も行っている	64	13.3%
通常+即日・土日検査も	31	6.5%

② ア通常検査の場合 (n=292)

A. 予約制ですか？

はい	164	56.2%
いいえ	125	42.8%

B. 1回あたり上限はありますか？ (n=292)

はい	106	36.3%
いいえ	182	62.3%
回答なし	4	1.4%

上限がある場合、平均人数と分布

	通常	即日
平均数		
10人未満	62件	131件
10-19人	16件	40件
20-29人	12件	16件
30-39人	6件	13件
40-49人	4件	7件
50人以上	1件	9件

C. プレカウンセリングを行っているか？

はい	282	96.6%
いいえ	4	1.4%
回答なし	6	2.1%

D. 結果返しは？

1週間後	199	68.2%
2週間後	72	24.7%
その他	18	6.2%

E. スクリーニング検査 実施施設は？

自保健所	47	16.1%
他保健所	24	8.2%
衛生研究所	123	42.1%
外部委託	95	32.5%

F.スクリーニング検査の方法は？

PA法	114	39.0%
IC法	38	13.0%
IC法(ダイナスクリーン)	18	6.2%
IC法(エスブライン)	6	
EIA法	60	20.5%
その他	63	21.6%

G.確認検査の実施施設は？

自保健所	10	3.4%
他保健所	13	4.5%
衛生研究所	190	65.1%
外部委託	72	24.7%

H.検査用政治の結果通知と確認検査検体は？

a.受検者にはスクリーニング検査の陽性結果を通知し、確認検査用に再採血し、確認検査を実施する	27	9.2%
b.スクリーニング検査の残検体で確認検査まで実施し、受検者には確認検査結果を通知する	234	80.1%
その他	23	7.9%

② イ即日検査の場合

(n=314)

A.予約制ですか？

はい	253	80.6%
いいえ	57	18.2%

B. 1回あたり上限はありますか？

はい	220	70.1%
いいえ	88	28.0%

上限がある場合、平均人数と分布

平均数	
10人未満	131件
10-19人	40件
20-29人	16件
30-39人	13件
40-49人	7件
50人以上	9件

C.プレカウンセリングを行っているか？

はい	307	97.8%
いいえ	1	0.3%
回答なし	6	1.9%

D.迅速検査で陽性(要確認検査)となった場合の結果返しは？

1週間後	171	54.5%
2週間後	104	33.1%
その他	26	8.3%
回答なし	13	4.1%

E.迅速診断キットの検査実施は？

a.自保健所 検査職員	207	65.9%
a.自保健所 医師	19	6.1%
a.自保健所 保健師	35	11.1%
a.自保健所 その他	23	7.3%
b.臨時雇用 検査職員	32	0.0%
b.臨時雇用 医師	0	0.0%
b.臨時雇用 保健師	0	1.0%
b.臨時雇用 その他	3	9.9%
c.外部委託	31	0.0%

F.確認検査 実施施設は？

自保健所	20	6.4%
他保健所	5	1.6%
衛生研究所	224	71.3%
外部委託	61	19.4%

G.確認検査用 検体は？

迅速検査残血液	229	72.9%
確認検査用再採血	57	18.2%
血漿	14	4.5%
血清	42	13.4%

③ 受検者について把握している内容は？

(n=480)

性別	467	97.3%
年齢	350	72.9%
年代	176	36.7%
居住地域	192	40.0%
受検動機	393	81.9%
感染リスク	297	61.9%
性的志向	171	35.6%
感染機会の時期	372	77.5%
情報源	270	56.3%
その他	74	15.4%

上記の内容について事業改善等に活用していますか。

(n=480)

活用している	264	55.0%
活用していない	161	33.5%

④ 結果説明等について

A. 結果説明時の担当者

	陰性時		迅速陽性時		確認陰性		確認陽性時	
記入数	456		279		349		410	
医師	206	45.2%	233	83.5%	228	65.3%	406	99.0%
保健師	308	67.5%	209	74.9%	252	72.2%	312	76.1%
看護師	33	7.2%	6	2.2%	13	3.7%	15	3.7%
その他(カウンセラー等)	42	9.2%	19	6.8%	21	6.0%	81	19.8%

迅速検査陽性時、手渡し資料がありますか？

ある	238件	49.6%
ない	42件	8.8%
無回答	200件	41.7%

B.陽性者への説明事項のマニュアルがありますか？

ある	282件	58.8%
ない	167件	34.8%
不明	31件	6.5%

C.陽性者への説明資料はありますか？

	全体		陽性経験保健所(n=110)	
ある	354件	73.8%	90件	81.8%
ない	99件	20.6%	15件	13.6%
回答なし	27件	5.6%	5件	4.5%

D.陽性者への手渡し資料はありますか？

	全体		陽性経験保健所(n=110)	
ある	380件	79.2%	98	89.1%
ない	71件	14.8%	8	7.3%
回答なし	29件	6.0%	4件	3.6%

E.確認検査で陽性の場合には届出をおこなっていますか？

	全体		陽性経験保健所(n=110)	
必ずおこなう	250件	52.1%	63件	57.3%
ほぼおこなう	35件	7.3%	9件	8.2%
おこなわない	22件	4.6%	7件	6.4%
医療機関に依頼する	123件	25.6%	27件	24.5%
回答なし	50件	10.4%	4件	3.6%

F.感染予防のための行動変容を働きかける相談をおこなっていますか？ (n=480)

行っている	439	91.5%
行っていない	15	3.1%
回答なし	26	8.3%

対象は？ (n=439)

全員に	328	74.7%
一部に	101	23.0%

場面は？

検査前に	56	12.8%
結果説明後に	111	25.3%
両方に	264	60.1%

具体的手法は？

パンフレット、結果説明書を活用	133	30.3%
カウンセリング	52	11.8%
予防法を中心に説明	39	8.9%
リスク行動の振り返り	29	6.6%

G.対応困難者の経験はありますか？

ある	207件	43.1%
ない	245件	51.0%
不明	28件	5.8%

対応困難者の紹介先はありますか？ (n=480)

ある	97件	20.2%
ない	305件	63.5%
不明	78件	16.3%

「ある」と答えた保健所→紹介先は？(複数回答あり) (n=97)

医療機関	41件	42.3%
NGO	20件	20.6%
その他	64件	66.0%

H.昨年1年間に妊婦さんの相談事例はありましたか？ (n=480)

ある	40件	8.3%
→1件	26件	
→2～4件	5件	
→5件～	1件	
ない	412件	85.8%
不明	28件	5.8%

I.昨年1年間に妊婦さんの検査受検はありましたか？

ある	39件	8.1%
→1件	24件	
→2～4件	4件	
→5件～	2件	
ない	410件	85.4%
不明	31件	6.5%

J.未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？ (n=480)

通常通り行う	364件	75.8%
受け付けない	1件	0.2%
特別な配慮をする	89件	18.5%
→陽性時には親にも説明	33件	37.1%
→保護者の同意を得られているか	15件	
→保護者同伴	13件	14.6%

⑤ HIV検査結果の連絡・受け渡しについて (n=480)

昨年1月以降にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して誤った結果を通知したことはありますか？

なかった	469	97.7%
HIVについてあった	2	0.4%
STIについてあった	0	0.0%

保健所における HIV 検査・相談体制に関する調査

このアンケートは、保健所における HIV 検査・相談（HIV 検査と同時に性感染症検査を含む）および結果通知の体制を把握し、今後の HIV 検査・相談の更なる向上の参考とするために実施します。ご協力をよろしくお願いいたします。なお、一つの保健所が複数の HIV 検査施設（保健センター、委託の検査相談等）を管轄する場合には、この用紙をコピーして頂き、施設毎にアンケートにお答えいただくようお願いいたします。

（アンケート集計結果は毎年、研究班の報告書としてまとめ報告するとともに、学会・学会誌等に発表します。原則として発表データは集計結果のみを使用し、個別の保健所が分かる形では、特別に許可を得た場合を除き公表することはありません。）

保健所名： _____ 所属： _____
 連絡担当者名： _____ 職種： 医師 ・ 保健師 ・ 事務 ・ その他（ _____ ）
 連絡先： TEL _____ FAX _____ E-mail _____

1. 貴保健所では HIV 検査相談を行っていますか？ （ はい ・ いいえ ）

「はい」と答えた保健所 → 平成 24 年 1～12 月の実施状況をお教え下さい。

① HIV 検査件数： 検査数 _____ 件 スクリーニング検査で陽性 _____ 件 確認検査陽性 _____ 件

② HIV 検査の結果を聞きにこなかった受検者数： _____ 件

③ ②の中で、HIV 検査が陽性で結果を聞きにこなかった数： _____ 件

④ 陽性者が医療機関を受診したかどうか分かる仕組みがありますか？ （ ある ・ ない ）

「ある」と答えた保健所 → 具体的に教えて下さい（ _____ ）

⑤ 医療機関を受診したことを把握できている陽性者数： _____ 件

⑥ 確認検査陽性中、感染症発生動向調査の届出を行った HIV 感染者数 _____ 件

2. 貴保健所で行っている HIV 検査相談事業の内容について教えて下さい。

① HIV 検査相談を行っている曜日と時間をご記入下さい。

（例）（通常（即日））（定期・イベント）検査：（火 曜日・月 年） 4 回 受付時間： 13 : 00 ～ 15 : 00

（通常・即日）（定期・イベント）検査： _____ 曜日 / （月・年） _____ 回 受付時間： _____ : _____ ～ _____ : _____

（通常・即日）（定期・イベント）検査： _____ 曜日 / （月・年） _____ 回 受付時間： _____ : _____ ～ _____ : _____

（通常・即日）（定期・イベント）検査： _____ 曜日 / （月・年） _____ 回 受付時間： _____ : _____ ～ _____ : _____

② HIV 検査事業の中で HIV 検査と一緒に HIV 以外の性感染症検査を行っていますか？

（ 行っていない ・ 行っている → （ 毎回 ・ イベント（年 回） ）

「行っている」と答えた保健所 → 一緒に実施している性感染症検査項目に○をしてください。

（ 梅毒 ・ クラミジア抗体 ・ クラミジア抗原 ・ 淋菌 ・ B 型肝炎 ・ C 型肝炎 ・ その他 _____ ）

ア. 通常検査を行っている場合

A. 予約制ですか？ （ はい ・ いいえ ）

B. 1 回あたり上限数がありますか？ （ はい → （ _____ ）人 ・ いいえ ）

C. 検査前に説明や相談（プレカウンセリング）を行っていますか？ （ はい ・ いいえ ）

D. 結果返しは？ （ 1 週間後 ・ 2 週間後 ・ _____ 日後以降 ）

E. スクリーニング検査実施施設は？

（ 自保健所 ・ 他保健所 ・ 衛生研究所 ・ 外部委託（機関名： _____ ））

F. スクリーニング検査の方法は？

（ PA 法 ・ IC 法（ダイナスクリーン、エスプライン） ・ EIA 法 ） ・ その他（ _____ ）

G. 確認検査の実施施設は？

（ 自保健所 ・ 他保健所 ・ 衛生研究所 ・ 外部委託（機関名： _____ ））

H. 検査陽性時の結果通知と確認検査検体について当てはまるものに○を付けてください。

a. 受検者にはスクリーニング検査の陽性結果を通知し、確認検査用に再採血し、確認検査を実施する。

b. スクリーニング検査の残検体で確認検査まで実施し、受検者には確認検査結果を通知する。

c. その他（ _____ ）

→ 裏面へつづく

イ. 即日検査を行っている場合

- A. 予約制ですか？ (はい ・ いいえ)
- B. 1回あたり上限数がありますか？ (はい ()人 ・ いいえ)
- C. 検査前に説明や相談(プレカウンセリング)を行っていますか？ (はい ・ いいえ)
- D. 迅速検査で陽性となった場合の確認検査の結果返しは？ (1週間後 ・ 2週間後 ・ ____日後以降)
- E. 迅速診断キットの検査実施は？
- a. 自保健所職員 (検査担当職員 ・ 医師 ・ 保健師 ・ その他 _____)
- b. 臨時雇用 (検査担当職員 ・ 医師 ・ 保健師 ・ その他 _____)
- c. 外部委託 (機関名 _____)
- F. 確認検査の実施施設は？
- (自保健所 ・ 他保健所 ・ 衛生研究所 ・ 外部委託 (機関名: _____))
- G. 確認検査用の検体は？ (迅速検査の残血液 ・ 確認検査用に再採血 → (血漿 ・ 血清))
- ③ 受検者について把握している内容に○を付けて下さい (複数回答可)。
- (性別 ・ 年齢 ・ 年代 ・ 居住地域 ・ 受検の動機 ・ 感染リスク ・ 性的指向 ・ 感染機会の時期 ・ 今回の検査の情報源 ・ その他(_____))
- 集計結果を事業の改善見直しや予算要求等に活用していますか？ (している ・ していない)
- ④ 結果説明・相談等について教えてください。H24年4月に体制等が変わった場合は変更後をご記入下さい。
- A. 結果説明時の1事業実施回当たりの担当者は？
- * 該当箇所の□にレ点を付け、合計人数を記入、担当職種に○を付け、職種別の人数をご記入下さい。
- 「陰性結果通知」 → (人 : 医師(人) ・ 保健師(人) ・ 看護師(人) ・ その他((人))
- 「迅速検査陽性通知」 → (人 : 医師(人) ・ 保健師(人) ・ 看護師(人) ・ その他((人))
- 「確認検査陰性通知」 → (人 : 医師(人) ・ 保健師(人) ・ 看護師(人) ・ その他((人))
- 「確認検査陽性通知」 → (人 : 医師(人) ・ 保健師(人) ・ 看護師(人) ・ その他((人))
- 「迅速検査陽性」時の説明体制 (例:、医師が結果を説明し、保健師が相談先などを説明)
- 具体的には？ (_____)、手渡し資料は？(ある ・ ない)
- 「確認検査陽性」時の説明体制 (例:医師が結果と医学的説明、保健師が他の説明、臨床心理士が相談)
- 具体的には？ (_____)
- B. 陽性者への説明事項に関するマニュアルがありますか？ (ある ・ ない)
- C. 陽性者への説明資料はありますか？ (ある (具体的に: _____) ・ ない)
- D. 陽性者に手渡す資料はありますか？ (ある (具体的に: _____) ・ ない)
- E. 確認検査で陽性の場合には感染症発生動向調査の届出を行いますか？
- (必ず行う ・ ほぼ行う ・ 行わない ・ 紹介先医療機関に依頼する)
- 「行わない」 or 「紹介先医療機関に依頼する」を選択した場合、理由を教えてください。
- (理由: _____)
- F. 感染予防のための行動変容を働きかける相談をしていますか？ (している ・ していない)
- 「している保健所」 → 対象は？ (全員 ・ 一部)、場面は？(検査前 ・ 結果説明後 ・ 両方)
- 具体的手法は？ (具体的に: _____)
- G. 対応困難者(不安神経症、リスク行動を繰り返す人等)の経験はありますか？ (ある ・ ない)
- 対応困難者の紹介先はありますか？ (ある ・ ない)
- 「ある」と答えた保健所 → (紹介先全てに○: 医療機関(診療科 _____) ・ NGO ・ その他 _____)
- H. 昨年1年間に妊婦さんからの相談事例はありましたか？(ある (件) ・ ない)
- I. 昨年1年間に妊婦さんの検査受検はありましたか？ (ある (件) ・ ない)
- J. 未成年の検査希望者への対応はどのようにしていますか？
- (通常通り行う ・ 受け付けない ・ 特別な配慮をする → (具体的に: _____))
- ⑤ HIV 検査結果の連絡・受け渡しについて教えてください。
- 昨年1年間にHIV/性感染症検査(無料・匿名)に関して誤った結果を通知したことはありましたか？
- (あった → (HIVについて ・ 性感染症について) ・ なかった)
- ⑥ HIV 検査相談事業を運営する上で、問題点や課題等がありましたら、余白または別紙にご記入下さい。

ご協力ありがとうございました。

平成25年 1月 5日

各 保 健 所 長 様

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業
HIV 検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究班
(研究代表者 加藤真吾)
研究分担者 今井光信 (田園調布学園大学 教授)

HIV 検査に関するアンケートのお願い (依頼)

厚生労働省の研究事業につきましては、日ごろ格別のご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

昨年度、全国保健所長会のご協力を得て行った、「保健所における HIV 検査体制に関する全国調査」の際には、大変お忙しい中にも関わらず、ご協力を頂き誠にありがとうございました。アンケート調査結果につきましては、全国保健所長会のサイト【トップページ→保健所長会の活動報告(アーカイブ)→2012.12.20 HIV 検査相談に関する全国保健所アンケート(<http://www.phcd.jp/osirase/121220hiv.html>)]に掲載させて頂きましたのでご一読いただければ幸いです。

また、本年度も継続して検査動向を把握するため、再度のアンケート調査を行うことになりました。年度末で大変お忙しいところ恐縮ですが、本調査へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

別紙のアンケート用紙にご回答の上、平成25年 1月25日(金)までに、返信用封筒にてご返信いただくようお願い申し上げます。また、一つの保健所で複数の HIV 検査相談施設(保健所支所、保健センター等)を管轄している場合には、大変申し訳ありませんが、アンケート用紙をコピーの上、各施設単位でアンケートのご回答をしていただけますようお願い致します。

なお、本調査は全国保健所長会のご了解を得て行っており、別途メールにおいてもご案内しております。本年度の本調査用紙へのご回答は、郵送でのご送付をお願い致します。

記

- 1 調査目的 保健所における HIV 検査(HIV 検査と同時に行う性感染症検査を含む)の検査体制および結果通知に関する体制の現状を調査する。
- 2 調査票回答者 保健所長 あるいは HIV 検査相談事業担当者
- 3 調査票回答期限 平成25年1月25日(金)
- 4 調査票回答方法
返信用封筒による郵送
宛先 〒215-8542 川崎市麻生区東百合ヶ丘 3-4-1
田園調布学園大学 人間福祉学部 教授 今井光信
(締め切り期日が迫っている場合、下記のメールアドレス経由でご回答頂いても結構ですが、その場合も返信用封筒による郵送での回答も必ずお願い致します。)
(宛先) Email: kensahan@m10.alpha-net.ne.jp

(本調査に関する問い合わせ先)
下記メールにより今井光信宛にお願い致します。
Email: kensahan@m10.alpha-net.ne.jp

2. 病院における HIV を含む感染症検査の実態調査

研究分担者 加藤真吾 (慶應義塾大学医学部微生物学・免疫学教室)

研究要旨

わが国の病院での HIV を含む感染症検査の実態を把握するため、全国の病院 9106 施設を対象に調査を実施した。回収率は 21.1%であった。回答を分析した結果、HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、梅毒検査はほぼすべての病院で行われていたが、HIV 抗体検査の実施率は 69.2%であった。年間の HIV 検査数は肝炎ウイルスや梅毒の検査の約 1/4 の 620 万件と推定された。また、規模の大きい病院ほど HIV 検査数が多い傾向があった。HIV 検査の約 3/4 は術前スクリーニング、入院時スクリーニング、針刺し事故といった院内感染対策のための検査であった。HBs 抗原検査数に対する HIV 検査数の比率は都道府県により大きな差があり、各都道府県の HIV 感染拡大と有意な逆相関の関係があった。この結果は病院における HIV 検査を拡大することが HIV 流行の抑制につながることを示唆している。今後、病院における HIV 検査をいかにして HIV 感染とエイズ発症の予防対策に組み入れるかが重要な課題になるであろう。

A. 研究目的

保健所等での HIV 検査については本研究班で過去数年間にわたり調査を続けてきたが、病院での HIV 検査に関する調査は今まで報告されていない。本研究は、わが国の病院における HIV を含む感染症の検査の実態を把握するため、全国のすべての病院を対象に各感染症検査件数、HIV 検査の目的別検査件数、結果説明の準備などについてインターネットを介した調査を実施し、病院での感染症検査が国の感染症対策に占めている役割を分析した。

B. 研究方法

全国の病院（医療法では医療施設のうち病床数 20 以上のものを病院という。）9106 施設を対象に各種感染症検査（HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、梅毒抗体検査、HIV 抗体検査、HTLV 抗体検査）の実施状況に関する調査票（文末の資料）を 2012 年 10 月 1 日に郵送し、2012 年 10 月 31 日を締切日として、インターネットの回答用ウェブサイトを紹介して記入された

調査票を回収した。

検査数の回答が簡便となるように、予め設定した階級から選択できるようにした。施設数あるいは検査数の集計にあたっては各階級の中央値を階級値として扱った。最も大きい階級、すなわち設問 2 の階級 1000 以上、設問 3-B の階級 2000 以上、設問 4 の階級値 401 以上の階級値は、それより少ない部分のヒストグラムを参考に、それぞれ 1250、2500、500 として扱った。回答された調査票のデータから全病院の検査数を推定するにあたっては、病院規模により回収率及び平均検査数が大きく異なることを考慮し、まず各病院規模ごとに検査数を回収率で割って検査数を推定し、その推定値を合計することにより全検査数を求めた。HIV 感染報告者数はエイズ動向委員会報告(<http://api-net.jfap.or.jp/status/index.html>)を用いた。統計学的解析はエクセル統計ソフト Statcel2（オーエムエス出版）を用いて行った。

C. 研究結果

全国の病院 9106 施設に調査票を郵送したが、そのうち 33 通が宛先不明のため返送された。回答のあった病院は 1921 施設で、回収率は 21.1%であった。回答のあった病院の病床数の合計は 486,505 床で、全国の病院の総病床数は 1,599,530 であることから、病床数からみた回収率は 30.4%であった。

都道府県別の回答数と回収率を図 1 に示す。回収率が最も高かったのは新潟県の 38.4%で、最も低かったのは栃木県の 12.8%であった。全国的にみると、西日本より東日本の自治体からの回収率が高い傾向があった。全国のすべての病院と回答のあった病院の規模（病床数）別分布を図 2 に示す。規模の大きい病院ほど回答する割合が高い傾向があった。

全病院及びエイズ治療拠点病院において過去半年間（2012 年 4 月～9 月）に各種感染症検査を実施した施設の割合を図 3 に示す。全病院では、HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、梅毒検査はほぼすべての病院で行われていたが、HIV 抗体検査の実施率は 69.2%、HTLV 抗体検査は 46.9%であった。エイズ治療拠点病院では、HTLV 抗体検査（実施率 90%）以外の検査はほぼすべての病院で実施されていた。

次に、同じく全病院における過去半年間（2012 年 4 月～9 月）の各種感染症検査の実施率を病院規模別に求めた（図 4）。HIV 抗体検査及び HTLV 抗体検査の実施率は病院規模が大きくなるほど高くなる傾向があった。

各種感染症検査の推定年間検査数を表 1 に示す。HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、梅毒抗体検査がおよそ 2000 万件以上であるのに対し、HIV 抗体検査はその約 1/4 の 620 万件であった。HTLV 抗体検査は 1/10 以下の 170 万件であった。

全病院とエイズ治療拠点病院における HIV 検査数の目的別割合を図 5 に示す。全病院では、術前スクリーニング 48.0%、入院時スク

リーニング 24.6%、針刺し事故 3.6%と、院内感染対策に関連した検査が合わせて 76.2%を占めていた。その他、妊婦検診 14.5%、感染疑い 6.1%、自発検査 3.2%であった。エイズ治療拠点病院での HIV 検査数の目的別割合は全病院と比べてあまり大きな差はなかった。

一般に大規模な病院ほど HIV 検査の実施数は多くなるので、各病院で HIV 検査がどれだけ積極的に実施されているかを検査数で評価することはできない。そこで、病院規模に関係なく、ほぼすべての病院で実施されている HBs 抗原検査数を基準として、他の感染症の検査数を比率を求め、それにより検査実施の程度を評価することにした。図 6 に HBs 抗原検査数に対する梅毒抗体検査数及び HIV 抗体検査数の比率と病床規模の関係を示す。梅毒検査比率は病院規模に関係なくほぼ 80%台で一定であったが、HIV 検査比率は病院規模が大きくなるにしたがって高くなる傾向があった。病床数が 20-49 の小規模の病院で HIV 検査比率が逆に高いのは、妊婦健診を実施している産科病院が比較的多く含まれるためと思われる。

各都道府県における HIV 検査比率を図 7 に示す。HIV 検査比率は自治体により大きな差があり、最も高かったのは三重県の 56.6%で、最も低かったのは宮崎県の 1.8%であった。都道府県におけるこのような HIV 検査比率の差が HIV 感染拡大と関係があるのかどうかを調べた。各都道府県の HIV 感染拡大の指標として、2000～2005 年の感染報告者数に対する 2006～2011 年の感染報告者数の比（以下「過去 12 年の感染拡大率」という。）を用いた。都道府県の中には HIV 感染報告者数が非常に少ないため、過去 12 年間の感染拡大率の計算値の誤差が大きくなるものもあるので、分析の対象とする都道府県を過去 12 年間の HIV 感染報告者数が上から第 1 位～第 23 位までの次の自治体に限った。すなわち、東京、大阪、愛知、神奈川、千葉、福岡、静岡、兵庫、埼

玉、茨城、北海道、京都、広島、栃木、沖縄、長野、群馬、岐阜、宮城、岡山、三重、奈良、石川の各都道府県である。図 8 にこれら 23 都道府県における HIV 検査比率と過去 12 年間の感染拡大率の関係を示す。両者の間には相関係数 -0.77 の有意な逆相関が認められた ($P < 0.001$)。

回答のあった全病院及びエイズ治療拠点病院における HIV 検査と検査結果の説明のために実施している対応の実施割合を図 9 に示す。全病院とエイズ拠点病院のどちらにおいても「他の感染症検査に準じる」の割合が最も高かった。全病院とエイズ治療拠点病院を比べると、後者の方が「他の専門機関に相談」以外の対応の実施割合が高かった。

D. 考察

わが国の病院での HIV を含む感染症検査の実態を把握するため、全国の病院 9106 施設を対象に調査を実施した。回収率は 21.1%であった。その結果、病院での推定年間検査数は約 620 万件と非常に多いこと、規模の大きい病院ほど HIV 検査数が多い傾向があること、HIV 検査の約 3/4 は院内感染対策のための検査で占められていること、各都道府県における HIV 検査率は HIV 感染拡大と有意な逆相関の関係があることなどが明らかになった。

HBs 抗原検査、HCV 抗体検査、梅毒抗体検査がほとんどすべての病院で実施され、推定年間検査数も 2000 万件以上であることが分かった。これらの 3 種類の感染症検査がここまで普及しているのは、術前及び入院時のスクリーニング検査に医療保険が適用されることが最大の理由ではないかと考えられる。一方、一部のエイズ拠点病院以外では、術前及び入院時のスクリーニング検査に医療保険が適用されていないにもかかわらず、この目的のために約 450 万件の検査が実施されていた。これは HIV 感染に対する院内感染対策への医療者からの強い要望を反映しているのではない

かと考えられる。しかし、図 9 の検査と検査結果の説明の対応をみると、「他の専門機関に相談」が 27.5%と高い一方、「小冊子の配布」、「研修会」、「ガイドラインの作成」は 10%以下であり、検査結果を説明するための準備が十分整っていない病院が多いことを示唆している。今後、エイズ拠点病院以外の一般病院の医療者に対して、HIV 検査の説明及び検査結果の告知に関する教育や研修の機会を拡大する必要があると思われる。

各都道府県における HBs 抗原検査数に対する HIV 検査数の比率が過去 12 年間の HIV 感染拡大率との間に相関係数 -0.76 の有意な逆相関の関係があった。わが国の HIV 感染拡大とこれほど高い相関をもつ因子は今まで報告されていない。2012 年における HIV 検査比率が過去 12 年間の HIV 感染拡大率と関係があることを説明する一つの可能性として、各都道府県の HIV 検査比率は過去 12 年間ほとんど変わっていないため、現在 HIV 検査比率の高い自治体ではこの間 HIV 感染の早期発見、早期診断が促進され、その結果として感染拡大が抑制されたということが考えられる。そうではなく、各都道府県における社会的関心あるいは経済動向などが交絡因子となり HIV 検査比率と HIV 感染拡大率の間に見かけの相関関係が生じた可能性もある。この問題をさらに追及するためには、病院において術前と入院時のスクリーニングにおいて HIV 感染と診断される件数を調査することが是非とも必要である。

E. 結論

保健所等における年間 HIV 検査数約 13 万件をはるかに超える推定 620 万件もの HIV 検査が病院において実施されていることが分かった。保健所等における検査数が当面飛躍的に拡大することが見込めない現状では、病院における HIV 検査をいかにして HIV 感染とエイズ発症の予防対策に組み入れるかが今後の重

要な課題となるであろう。

F. 研究発表

論文発表

1. Kondo M, Lemey P, Sano T, Itoda I, Yoshimura Y, Sagara H, Tachikawa N, Yamanaka K, Iwamuro S, Matano T, Imai M, Kato S, Takebe Y. Emergence in Japan of an HIV-1 variant associated with MSM transmission in China: First indication for the international dissemination of the Chinese MSM lineage. *J Virol*. 2013. (in press)
2. 加藤真吾：(2012) わが国の HIV 流行終息にむけて、*IASR* 33:237-239.
3. 井戸田一朗、加藤康幸、畑寿太郎：都内診療所における男性性感染症患者の HIV 陽性率、*日本性感染症学雑誌* 23:90-93、2012
4. 井戸田一朗、星野慎二、沢田貴志、佐野貴子、上田敦久、加藤真吾、今井光信：コミュニティセンター「かながわレインボーセンターSHIP」の夜間 HIV/STIs 即日検査相談を受けた men who have sex with men の特徴及び罹患率、*日本公衆衛生雑誌* (in press)

学会発表

1. Kato S, Murayama M, Kondo M, Takagi R; Anti-HIV-1 activity of saliva through cleavage of viral RNA strands, The XIX International AIDS Conference (22-27 July 2012, Washington, D.C., USA) .
2. 加藤真吾：わが国の HIV 流行終息にむけて (共催セミナー2)、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
3. 加藤真吾：HIV-1 指向性推定システム geno2pheno の性能評価、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、

横浜

4. 小谷宙、須藤弘二、長谷川直樹、池谷修、河村俊一、加藤真吾、岡本真一郎、岩田敏：ウイルス RNA およびウイルス DNA を用いた指向性検査結果の比較検討、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
5. 吉田繁、服部純子、松田昌和、橋本修、岡田清美、和山行正、加藤真吾、伊部史朗、巽正志、杉浦亙：2011 年度 HIV 薬剤耐性検査外部精度管理の報告、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
6. 前田憲昭、加藤真吾、的野慶、溝部潤子、中川裕美子、池野良：院内ポスターを活用した検査へ繋げる歯科診療、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
7. 須藤弘二、佐野貴子、近藤真規子、今井光信、加藤真吾：HIV 郵送検査に関する実態調査(2009-2011)、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
8. 坪井宏仁、柳瀬未季、吉田直子、Mouhiuddin Hussain Khan、加藤真吾、木村和子：だ液および尿を検体とする HIV 自己検査キットの試買調査、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
9. 小島賢一、花房秀次、久慈直昭、高桑好一、加嶋克則、加藤真吾：HIV 感染者の生殖補助医療を支援してー最近五年間の現状と課題ー、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
10. 近藤真規子、佐野貴子、須藤弘二、立川夏夫、相楽裕子、岩室紳也、井戸田一朗、山中晃、武部豊、今井光信、加藤真吾：日本で流行している HIV-1 サブタイプの変遷、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜

11. 佐野貴子、小林寛子、杉浦太一、須藤弘二、植田知幸、清水茂徳、近藤真規子、今井光信、加藤真吾：ホームページ「HIV 検査・相談マップ」による HIV 検査機関の情報提供およびサイト利用状況、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
12. 佐野貴子：保健所等における HIV 検査体制の現状と課題、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会シンポジウム、2012 年 11 月、横浜
13. 井部進、南宮湖、鎌田将史、藤原宏、長谷川直樹、加藤真吾、小谷宙、戸蒔祐子、岩田敏、根岸昌功：脳悪性リンパ腫と HIV 脳症及び全身性カポジ肉腫の合併により死亡の転帰を辿った AIDS 患者の剖検例、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
14. 鎌田将史、南宮湖、井部進、藤原宏、長谷川直樹、加藤真吾、小谷宙、戸蒔祐子、岩田敏、根岸昌功：HIV 患者におけるニューモシスチス肺炎回復後の呼吸機能の検討、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜
15. 服部純子、瀧永博之、渡邊大、長島真美、貞升健志、近藤真規子、南留美、吉田繁、森治代、内田和江、椎野禎一郎、加藤真吾、千葉仁志、佐藤典宏、伊藤俊広、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、古賀道子、岩本愛吉、西澤雅子、岡慎一、伊部史朗、松田昌和、林田庸総、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、白阪琢磨、小島洋子、藤井輝久、高田昇、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦互：新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性 HIV の動向、第 26 回日本エイズ学会学術集会・総会、2012 年 11 月、横浜

表1. 全病院とエイズ治療拠点病院での各種感染症検査の推定年間検査数

検査項目	(千件)	
	全病院	エイズ拠点病院
HBs抗原検査	25,600	4,470 (17.5%)
HCV抗体検査	24,800	4,330 (17.5%)
梅毒抗体検査	21,500	3,900 (18.1%)
HIV抗体検査	6,200	1,930 (30.9%)
HTLV抗体検査	1,700	410 (24.2%)

図1. 都道府県別調査回収率

